



浜松市博物館情報



Hamamatsu City History Museum News

2022.4.15

No.349

子供の表情と思考が一転する瞬間 ～「本物」と「身近なもの」の力～

常設展示室に入ります。すぐのところにある「蜷塚遺跡第二十五号人骨」は来館者の多くが気になる展示です。「本物」「いや、さすがに違うでしょう。」「そんなつぶやきが聞こえてきます。校外学習で来館する六年生に何気なく本物がどうか予想させると、半々か、過半数が「本物ではない」と予想する人が多いです。その後、本物であることを知り、表情が一転、驚きの声が上がります。「なぜこんなにきれいに残るの?」「この人が生きていたのか?」「展示を見る目が急に変わります。「本物を見せることができ、来館して本当によかったです。「そんな引率の先生方の言葉が私たちの励みにもなります。」

それは逆に、小学生が気に留めることなく通り過ぎるころもあります。例えば「浜松最古の水田跡」という写真パネルです。ここでふと立ち止まらせて問いかけます。「この写真はどこか分かる?」「当然子供たちは分かりません。またこの時点で興味もありません。しかし、その場所が、多くの子が知っているお店の位置であることを知った瞬間、歓声が上がります、全く興味をなさそうに見えた子も、表情が輝きます。「この前ここに行ったらばかりだよ。」「今は遺跡がないけど、どういうこと?」「こんな風に遺跡ってたくさんあるの?」「一気に疑問があらわれます。」

このように、子供の表情と思考が一転する瞬間は、解説している側にとっては、大変嬉しく、やりがいを感じるものです。そして何より、前者の例のような「本物」の力と、後者の「身近なもの」の力は大変大きいと感じます。

三年生に昔の道具やへらしを解説する際には、子供たちにとって「身近」で興味・関心が高いアニメや映画、漫画などの話も織り交ぜることがあります。大好きなアニメの中に、実はたくさん昔の道具が出てきて、登場人物が使っていることを知り、「もう一回見てみるよ!」「このアニメは昭和?大正?」と、一気に歴史への興味関心が高まります。

学校に向いて展示をし、解説や体験指導をする「移動博物館」という事業があります。ここでは、博物館職員が調査・作成した「学区の歴史」の展示コーナーを設けます。大平台小のある六年生の子は、何気なく蜷塚遺跡の話聞き、それほど興味がないような表情で目の前の縄文時代の遺物を見ていました。しかし、「蜷塚遺跡と同じ時代に、ある場所にむらがありました。それは……ここです。」とそうやって学校の敷地付近の発掘現場の写真を見せると、表情が一転しました。「まさか、ここに?」「土器とかも出てきたの?」「どんな風に生活していたの?」「こちらがたじろぐほどです。」

その後、その子を含む多くの子が自主勉強の

題材にしたり、遺跡を肌で感じるために歩いたりしたという話を先生から聞きました。主体的な姿に先生も驚いていました。

小学生にとって「歴史」は抽象的であり、年代が遡れば遡るほど実感しにくいものです。どこか「自分」とは関係のない少し遠い存在である「歴史」を「本物」と「身近なもの」の力を借り、効果的な問いかけと分かりやすい言葉によって、「自分」とつながる支援をする。そうやって歴史に興味をもつ子を増やすことが、私たち博物館職員の大切な役割の一つであると考えています。

市内の小中学生には、すでに一人一台タブレットが支給され、様々な分野でデジタル化が急速に進んでいます。「不易と流行」という言葉がありますが、「流行」にあたるデジタル化への推進をしていくとともに、これまで博物館が大切にしてきた「不易」の部分も、変わらず大切に

して、博物館の教育普及事業を進めていきたいと考え



移動博物館「学区の歴史」コーナーの様子

【博物館所蔵資料の紹介】

蜷塚遺跡 第25号人骨

蜷塚遺跡からは縄文人の墓地が見つかり、当時の人骨がそのまま残っていました。貝塚の貝殻が人骨の溶けるのを防いでくれたから（※）です。

この人物は、腕に貝輪をはめた70歳ぐらいの男性で、身長は150cmほどですが、骨太でがっしりした体格をしています。4000年前の人物の体格や埋葬の方法が分かった貴重な人骨です。

（※貝殻から染み出た炭酸カルシウムによって土壌がアルカリ性に傾き、人骨の分解が進みにくくなります。）



【移動博物館（学校で展示解説・体験）】

博物館に所蔵されている資料をセットにし、学校で展示及び解説をしています。



「大昔のくらし」セットの例

【貸出資料】

博物館に所蔵されている資料をセットにし、学校に貸し出しをしています。



「太平洋戦争と浜松」セットの例

【他のセット】

- 「昔のくらしの道具（明治～昭和）」
- 「天竜川の治水（金原明善）」
- 「三方原の開拓」

※セット以外の個々の資料もあります。

催し物のご案内

★小展示

「古墳へでかけよう！～浜松の横穴式石室～」

開催中～5月8日(日)

市内で見学できる横穴式石室や出土品、近年の発掘調査成果などを紹介します。

★小展示「【干支展】寅」

開催中～5月8日(日)

令和4年の干支「寅」にちなんだ資料を豊橋市自然史博物館と共催で展示します。

★はまはく GW 体験館

～古墳時代にタイムスリップ！～

5月1日(日)～5日(木)

○勾玉づくり ○缶バッジづくり

○クイズラリー ○ガイドツアー

○映像コーナー「行った気になる浜松の古墳ツアー」

5月3日(火)～5日(木)

○銅鏡風ミニ鏡づくり（内行花文鏡）

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

日時：5月14日(土)、6月11日(土)

14：00から30分程度

会場：蜷塚公園内旧高山家住宅

参加費：無料

※事前申込み不要



★テーマ展「新指定文化財展」

6月4日(土)～7月18日(月・祝)

近年指定された市内の文化財を公開し、併せて当館所蔵の指定文化財も展示します。

※各イベントの内容、定員、参加費などの詳細は、ホームページ、SNSでご確認ください。

※イベントは、変更、中止になる場合があります。

左から
ホームページ
ツイッター
インスタグラム



新型コロナウイルス感染予防対策として、ご来館の皆様以下のことをお願いしています。

- ・マスクの着用
- ・館内での会話は控えめに
- ・同行者以外との距離をあげる

※体調がすぐれない場合は来館をご遠慮ください。

浜松市博物館

開館時間：9時～17時

4～6月の休館日：4/18, 25 5/6, 9, 16, 23, 30, 31 6/1, 2, 3, 6, 13, 20, 27

〒432-8018 浜松市中区蜷塚四丁目22番1号

電話：053-456-2208

FAX：053-456-2275

Eメール：hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

HP：https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/